

CA Application Performance Management

for Oracle WebLogic Portal ガイド

リリース 9.5



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、
(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2013 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このドキュメントは、以下の CA Technologies 製品および機能に関するものです。

- CA Application Performance Management (CA APM)
- CA Application Performance Management ChangeDetector (CA APM ChangeDetector)
- CA Application Performance Management ErrorDetector (CA APM ErrorDetector)
- CA Application Performance Management for CA Database Performance (CA APM for CA Database Performance)
- CA Application Performance Management for CA SiteMinder® (CA APM for CA SiteMinder®)
- CA Application Performance Management for CA SiteMinder® Application Server Agents (CA APM for CA SiteMinder® ASA)
- CA Application Performance Management for IBM CICS Transaction Gateway (CA APM for IBM CICS Transaction Gateway)
- CA Application Performance Management for IBM WebSphere Application Server (CA APM for IBM WebSphere Application Server)
- CA Application Performance Management for IBM WebSphere Distributed Environments (CA APM for IBM WebSphere Distributed Environments)
- CA Application Performance Management for IBM WebSphere MQ (CA APM for IBM WebSphere MQ)
- CA Application Performance Management for IBM WebSphere Portal (CA APM for IBM WebSphere Portal)
- CA Application Performance Management for IBM WebSphere Process Server (CA APM for IBM WebSphere Process Server)
- CA Application Performance Management for IBM z/OS® (CA APM for IBM z/OS®)
- CA Application Performance Management for Microsoft SharePoint (CA APM for Microsoft SharePoint)
- CA Application Performance Management for Oracle Databases (CA APM for Oracle Databases)

- CA Application Performance Management for Oracle Service Bus (CA APM for Oracle Service Bus)
- CA Application Performance Management for Oracle WebLogic Portal (CA APM for Oracle WebLogic Portal)
- CA Application Performance Management for Oracle WebLogic Server (CA APM for Oracle WebLogic Server)
- CA Application Performance Management for SOA (CA APM for SOA)
- CA Application Performance Management for TIBCO BusinessWorks (CA APM for TIBCO BusinessWorks)
- CA Application Performance Management for TIBCO Enterprise Message Service (CA APM for TIBCO Enterprise Message Service)
- CA Application Performance Management for Web Servers (CA APM for Web Servers)
- CA Application Performance Management for webMethods Broker (CA APM for webMethods Broker)
- CA Application Performance Management for webMethods Integration Server (CA APM for webMethods Integration Server)
- CA Application Performance Management Integration for CA CMDB (CA APM Integration for CA CMDB)
- CA Application Performance Management Integration for CA NSM (CA APM Integration for CA NSM)
- CA Application Performance Management LeakHunter (CA APM LeakHunter)
- CA Application Performance Management Transaction Generator (CA APM TG)
- CA Cross-Enterprise Application Performance Management
- CA Customer Experience Manager (CA CEM)
- CA Embedded Entitlements Manager (CA EEM)
- CA eHealth® Performance Manager (CA eHealth)
- CA Insight™ Database Performance Monitor for DB2 for z/OS®
- CA Introscope®
- CA SiteMinder®
- CA Spectrum® Infrastructure Manager (CA Spectrum)

- CA SYSVIEW® Performance Management (CA SYSVIEW)

CA への連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: 概要	9
CA APM for Oracle WebLogic Portal について.....	9
CA APM for Oracle WebLogic Portal コンポーネント.....	10
CA APM for Oracle WebLogic Portal コンポーネントの相互動作.....	10
WebLogic Portal の監視機能.....	11
第 2 章: CA APM for Oracle WebLogic Portal のインストールおよび設定	13
開始する前に.....	13
CA APM for Oracle WebLogic Portal のインストールおよび設定.....	14
CA APM for Oracle WebLogic Portal の Enterprise Manager コンポーネントのインストール.....	15
CA APM for Oracle WebLogic Portal のエージェント コンポーネントのインストール.....	16
標準、完全、エラー PBD の PBL ファイルの設定.....	18
バージョン互換性用の PBD の設定.....	24
(オプション) URL の除外リストの作成.....	25
PowerPack for WebLogic Portal のクラスタ化.....	25
MOM 上での JavaScript 計算機の実行.....	26
CA APM for Oracle WebLogic Portal の無効化.....	27
第 3 章: CA APM for Oracle WebLogic Portal の使用	29
WebLogic Portal の監視.....	29
WebLogic Portal のメトリック.....	29
パフォーマンスが低いコンポーネント.....	31
ダッシュボードの表示.....	31
ダッシュボード.....	35
メトリックの表示.....	37
パフォーマンスが最も非効率的なコンポーネントの表示.....	38
オペレーションのサンプルシナリオ.....	44
カスタマ: 問題の発生.....	44
付録 A: メトリック	47
メトリックパス.....	47
メトリックカテゴリ.....	47
Authentication.....	47

Content Management.....	48
Desktops.....	48
Entitlements.....	49
Java Page Flows.....	49
J2EE Portlet API.....	49
NetUix Controls.....	50
Personalization.....	50
Presentation Contexts.....	50
Profile Factory.....	50
Profile Manager.....	50
Workshop Controls.....	50
WSRP.....	51

第 4 章: IPv6 アドレスの有効化 51

付録 B: FAQ 53

製品で作成されるメトリックをどのようにカスタマイズできますか?.....	53
製品のメソッドレベルメトリックが表示されないのはなぜですか?.....	53
Enterprise Manager のログに「An Agent is illegally reporting data against the calculator metric」というエラーメッセージが表示されるのはなぜですか? Investigator ツリーにも NULL ノードが表示されるのはなぜですか?.....	54
ブック、ページ、およびデスクトップ間で不正な関係が表示されるのはなぜですか。.....	54
ページの平均応答時間が、ページ内の最も非効率的なポートレットの平均応答時間未満で表示されるのはなぜですか。.....	54
1つのページ/ポートレットをクリックすると、Investigator に多くのブック/ページ/ポートレットの値が表示されるのはなぜですか。多くのコンポーネントで平均応答時間が 0 になるのはなぜですか。.....	55
ページ/ブックに一度アクセスした場合でも、1 より大きい間隔ごとの応答数の値が表示されるのはなぜですか。.....	55
1つのポートレットが多数のページに含まれている（同様に、1つのページが多数のブックに含まれている）場合に、その一部がグラフに表示されないのはなぜですか?.....	55
グラフに親と子の両方のコンポーネントがある場合でも、親から子（ブック - ページ、ページ - ポートレット）へのエッジが表示されないのはなぜですか。.....	56
グラフにテーブルのすべてのコンポーネントが表示されないのはなぜですか。.....	56
複数のポータルタイプビューが表示されるのはなぜですか。その中で、想定したとおりに実行されているのは 1 つだけです。.....	56
ダッシュボードに一部のコンポーネントのデータが表示されないのはなぜですか。.....	57

第 1 章: 概要

この章では、CA APM for Oracle WebLogic Portal の概要について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[CA APM for Oracle WebLogic Portal について](#) (P. 9)

[CA APM for Oracle WebLogic Portal コンポーネント](#) (P. 10)

[CA APM for Oracle WebLogic Portal コンポーネントの相互動作](#) (P. 10)

[WebLogic Portal の監視機能](#) (P. 11)

CA APM for Oracle WebLogic Portal について

CA APM for Oracle WebLogic Portal は、開発、QA、ステージング、および実運用時に、ポータルフレームワークの継続的なパフォーマンス監視および管理を提供します。また、ポータルおよびクリティカルなバックエンドシステムのパフォーマンスの問題を識別できます。

CA APM for Oracle WebLogic Portal は WebLogic Portal からリアルタイムでメトリックを収集し、分析します。メトリックが可用性、パフォーマンス、または稼働状況の問題を示している場合は、その問題に応じてアラートをカスタマイズできます。個々の WebLogic Portal 展開のニーズを満たすようにアラートを設定できます。CA APM for Oracle WebLogic Portal は CA Introscope® エンタープライズ監視プラットフォーム上に構築されているため、その主要な利点をすべて共有します。

ダッシュボードを使用して、ポータルの全般的な稼働状況、パフォーマンス、および可用性を表示できます。問題を引き起こしているコンポーネントの詳細を表示するには、アラートおよびリンクをダブルクリックします。また、Investigator ツリーには、パフォーマンスが低いコンポーネントのリストが表示されます。パフォーマンスが低いコンポーネントがその他のコンポーネントにどのように影響するかを理解するには、グラフィカルビューを生成して、それらの関係を表示します。

CA APM for Oracle WebLogic Portal コンポーネント

CA APM for Oracle WebLogic Portal には以下のコンポーネントが含まれます。

- CA Introscope® — CA APM for Oracle WebLogic Portal の基盤を形成しています。Enterprise Manager、Introscope エージェント、Workstation、および WebView が含まれます。

Introscope とそのコンポーネントの詳細については、「*CA APM 設定および管理ガイド*」を参照してください。

- エージェント拡張機能、PBL、および PBD ファイル — WebLogic Portal メトリックデータを収集し、Introscope Enterprise Manager にメトリック用のデータを渡します。
- 管理モジュール、Enterprise Manager プラグイン、および Workstation プラグイン — メトリックデータを分析および集約して、表示用のデータを Workstation に渡します。
- Introscope Workstation およびダッシュボード — WebLogic Portal 固有のメトリックに基づき、WebLogic Portal の全般的な稼働状況、パフォーマンス、および可用性を表示します。

CA APM for Oracle WebLogic Portal コンポーネントの相互動作

CA APM for Oracle WebLogic Portal コンポーネントは、以下のように相互動作します。

- WebLogic Portal および Application サーバ内に配置されている Introscope エージェント拡張機能は、メトリックを収集し、それらを Enterprise Manager に渡します。
- Enterprise Manager はメトリックを分析し、Enterprise Manager プラグインを使用してそれらを集約します。
- Introscope Workstation はそれらのメトリック、およびメトリックに基づいたパフォーマンスが低いコンポーネントを表示します。また、Workstation は、Portal Server の全般的な稼働状況、パフォーマンス、および可用性を表示します。

WebLogic Portal の監視機能

WebLogic Portal の機能ワークフローは、要求の受信で始まり、ポータルページの表示で終了します。

CA APM for Oracle WebLogic Portal は、メトリック カテゴリのこれらの機能に関連するメトリックを収集およびレポートします。WebLogic Portal 機能に対応するキー シーケンス、機能、およびメトリック カテゴリのリストを以下の表に示します。

ワークフロー シーケンス	WebLogic Portal の機能	メトリック カテゴリ
1	トランザクション要求の送信	なし
2	認証	Access Checks、Adjudicate Results、Authenticate Users、Basic User Form Authentication、Get Roles、Validate Principal、Run as Users
3	コンテンツ管理（図では記載なし）	Node、Node Ops、Search、Search Ops、Repository Manager、Expression Helper
4	資格情報	Get Roles、Is User in Role、Is Access Allowed
5	Java ページフロー（図では記載なし）	Java Page Flows {packagename} {classname} {method}
6	J2EE ポートレット API	Render
7	NetUlx コントロール（図では記載なし）	NetUlx Control {classname} {method}
8	パーソナライゼーション（図では記載なし）	Advisor、Advislet
9	プレゼンテーション コンテキスト（図では記載なし）	Presentation Contexts {classname} Render
10	プロファイル ファクトリ（図では記載なし）	Get Profile、Create Profile Identity
11	プロファイル マネージャ（図では記載なし）	Get Properties、Get Property as String、Set Property

12	ワークショップ コントロール (図では記載なし)	Create User Control、 User Login Control、 User Profile Control、 User Info Control
13	WSRP (Web Services for Remote Portlets) (図では記載なし)	Consumer、 Producer

また、CA APM for Oracle WebLogic Portal は WebLogic Portal のコンポーネントのメトリックを監視およびレポートします。CA APM for Oracle WebLogic Portal が監視するコンポーネントおよび対応するライフサイクルメソッドを以下の表に示します。

WebLogic Portal コンポーネント	CA APM for Oracle WebLogic Portal で表示されるコンポーネントに対応するライフサイクルメソッド
デスクトップ	なし
ブック	loadState、 handlePostBackData、 raiseChangeEvents、 preRender、 saveState
ページ	loadState、 handlePostBackData、 raiseChangeEvents、 preRender、 saveState
ポートレット	loadState、 handlePostBackData、 raiseChangeEvents、 preRender、 saveState

WebLogic Portal メトリックの完全なリストについては、以下を参照してください。

第 2 章: CA APM for Oracle WebLogic Portal のインストールおよび設定

この章では、CA APM for Oracle WebLogic Portal のインストールおよび設定の手順について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[開始する前に \(P. 13\)](#)

[CA APM for Oracle WebLogic Portal のインストールおよび設定 \(P. 14\)](#)

[PowerPack for WebLogic Portal のクラスタ化 \(P. 25\)](#)

[CA APM for Oracle WebLogic Portal の無効化 \(P. 27\)](#)

開始する前に

インストール手順を開始する前に、以下の情報を確認します。

- <https://support.ca.com> <https://support.ca.com> にある「CA APM Compatibility Guide」を確認して、サポートされているバージョンの WebLogic Portal がインストールされていることを確認します。

Compatibility Guide を検索するには、以下の手順に従います。

1. <https://support.ca.com> <https://support.ca.com> にアクセスしてログインします。
2. ドロップダウンリストから [CA APM] を選択します。
3. [Product Status] をクリックします。
4. [Application Performance Management Compatibility Guide] をクリックします。
5. ご使用のリリースに対応するガイドをクリックします。

- ネットワーク内の以下のディレクトリの場所を確認します。
 - WebLogic マシン — WebLogic のインストールディレクトリは <WL_Home> として参照され、インストール中に指定されます。
 - Enterprise Manager マシン — Enterprise Manager のホーム ディレクトリは <Introscope_Home> として参照されます。
 - Workstation マシン — Introscope Workstation のホーム ディレクトリは <Introscope_WS_Home> として参照されます。
- ご使用の WebLogic Portal でインストールされた Java 仮想マシンがバージョン 1.5 以降であることを確認します。

CA APM for Oracle WebLogic Portal のインストールおよび設定

CA APM for Oracle WebLogic Portal のインストールおよび設定の手順の概要を以下に示します。

1. Enterprise Manager をインストールします。「[CA APM for Oracle WebLogic Portal の Enterprise Manager コンポーネントのインストール \(P. 15\)](#)」を参照してください。
2. エージェント コンポーネントをインストールします。「[CA APM for Oracle WebLogic Portal のエージェント コンポーネントのインストール \(P. 16\)](#)」を参照してください。
3. PBL ファイルを使用して、標準モードまたは完全モードのいずれかでエージェントを設定します。「[標準、完全、エラー PBD の PBL ファイルの設定 \(P. 18\)](#)」を参照してください。
4. WebLogic Portal Server 9.2 を使用している場合は、バージョン互換性用の PBD を設定します。「[バージョン互換性用の PBD の設定 \(P. 24\)](#)」を参照してください。
5. (オプション) 監視対象から除外する URL を記載した除外リストを作成します。「[\(オプション\) URL の除外リストの作成 \(P. 25\)](#)」を参照してください。

CA APM for Oracle WebLogic Portal の Enterprise Manager コンポーネントのインストール

別のエージェントで同じ Enterprise Manager を使用している場合は、Enterprise Manager コンポーネントを再インストールする必要はありません。それらのコンポーネントは、<Introscope_Home>¥examples フォルダにすでにインストールされています。

次の手順に従ってください:

注: 別のエージェントで同じ Enterprise Manager を使用している場合は、手順 2 から始めます。

1. Enterprise Manager に CA APM for Oracle WebLogic Portal の Enterprise Manager コンポーネントをインストールするには、Enterprise Manager のメインインストーラを実行します。

Enterprise Manager インストーラは、<Introscope_Home>¥examples¥PowerPackforWeblogicPortal ディレクトリにファイルを配置します。

詳細については、「CA APM インストールおよびアップグレードガイド」を参照してください。

2. <Introscope_Home>¥examples¥PowerPackforWeblogicPortal ディレクトリに以下のファイルが存在することを確認します。

注: 以下のセクションでは Microsoft Windows のディレクトリ構文を使用しています。UNIX など、その他のインストールプラットフォームでは、「¥」を「/」に置き換えます。

.¥product¥enterprisemanager¥plugins¥com.wily.powerpack.weblogicportal.em.ext.jar

Enterprise Manager 拡張機能のプラグイン。

.¥product¥enterprisemanager¥plugins¥com.wily.powerpack.weblogicportal.em.service.jar

Enterprise Manager サービスのプラグイン。

.¥ws-plugins¥com.wily.powerpack.weblogicportal.ws.ext.jar

Workstation 拡張機能のプラグイン。

.¥config¥modules¥PowerpackForWeblogicPortal_ManagementModule_typical.jar

ダッシュボードにパフォーマンス メトリックを表示するための標準設定用の管理モジュール JAR。

¥config¥modules¥portal¥PowerpackForWeblogicPortal_ManagementModule_full.jar

ダッシュボードにパフォーマンス メトリックを表示するための完全設定用の管理モジュール JAR。

3. ¥examples ディレクトリ内の構成に基づいて、すべてのファイルを正しい場所にコピーします。

たとえば、Enterprise Manager 拡張機能用のプラグイン `com.wily.powerpack.weblogicportal.em.ext.jar` は、`<Introscope_Home>¥examples¥PowerPackforWeblogicPortal¥product¥enterprisemanager¥plugins¥` ディレクトリから `<Introscope_Home>¥product¥enterprisemanager¥plugins¥` ディレクトリにコピーします。

CA APM for Oracle WebLogic Portal のエージェント コンポーネントのインストール

インプロセス エージェント インストーラを実行して、WebLogic のエージェントをインストールします。

次の手順に従ってください:

1. WebLogic のエージェントをインストールするには、インプロセス エージェント インストーラを実行します。

詳細については、「[CA APM インストールおよびアップグレードガイド](#)」を参照してください。

2. 以下のタスクのいずれか 1 つを実行します。
 - a. CA APM for Oracle WebLogic Portal のインストールのみを行うには、アプリケーションサーバとして WebLogic を選択し、インストールディレクトリとして <WL_Home> を指定します。

エージェントファイルはすべて <WL_Home>%wily ディレクトリにコピーされます。 *PowerPackforWeblogicPortal_ext.jar* は <WL_Home>%wily%examples%<PowerPackforWeblogicPortal>%ext ディレクトリにコピーされます。
 - b. CA APM for Oracle WebLogic Portal をインストールして有効にするには、アプリケーションサーバとして WebLogic を選択し、インストールする CA APM for Oracle WebLogic Portal を選択し、インストールディレクトリとして <WL_Home> を指定します。

エージェントファイルはすべて <WL_Home>%wily ディレクトリにコピーされます。 *PowerPackforWeblogicPortal_ext.jar* は <WL_Home>%wily%core%ext ディレクトリに移動されます。
3. <WL_Home>%wily ディレクトリに以下のファイルが存在することを確認します。

注: 以下のセクションでは Microsoft Windows のディレクトリ構文を使用しています。UNIX など、その他のインストールプラットフォームでは、「¥」を「/」に置き換えます。

<WL_Home>%wily%core%config 内の powerpackforweblogicportal.pbl

すべての PBD の一覧が記載されている ProbeBuilder リスト。

<WL_Home>%wily%core%config 内の powerpackforweblogicportal.pbd

WebLogic Portal のトレーサのすべてのクラスとメソッドの定義が含まれる PBD。

<WL_Home>%wily%core%config 内の
powerpackforweblogicportal_typical.pbd

ポータルサーバのクリティカルなコンポーネントのパフォーマンスを監視するために有効にする、クリティカルなトレーサのみが含まれる PBD。

<WL_Home>%wily%core%config 内の powerpackforweblogicportal_full.pbd

ポータルサーバのすべてのコンポーネントのパフォーマンスを監視するために有効にする、すべてのトレーサが含まれる PBD。

powerpackforweblogicportal_errors.pbd

Errors Per Interval メトリックのレポートに関するトレーサが含まれる PBD。

`./examples<PowerPackforWeblogicPortal>extPowerPackforWeblogicPortal_ext.jar`

メトリック データを収集するエージェント拡張機能。

4. CA APM for Oracle WebLogic Portal をインストールして有効にした場合は、`<WL_Home>wilycoreconfig` ディレクトリにある `IntroscopeAgent.profile` ファイル内の `introscope.autoprobe.directivesFile` プロパティに PBL ファイルが以下のように追加されていることを確認します。

`introscope.autoprobe.directivesFile=powerpackforweblogicportal.pbl`

5. エージェントのインストール時に CA APM for Oracle WebLogic Portal を有効にしていない場合は、以下の操作を実行して有効にします。

- a. `<WL_Home>wily` ディレクトリにある `IntroscopeAgent.profile` ファイル内の `introscope.autoprobe.directivesFile` プロパティに以下のように PBL ファイルを追加します。

`introscope.autoprobe.directivesFile=powerpackforweblogicportal.pbl`

- b. `PowerPackforWeblogicPortal_ext.jar` ファイルを `<WL_Home>wilyexamples<PowerPackforWeblogicPortal>ext` ディレクトリから `<WL_Home>wilycoreext` ディレクトリにコピーします。

標準、完全、エラー PBD の PBL ファイルの設定

CA APM for Oracle WebLogic Portal を標準設定または完全設定に設定できます。

- 標準設定の場合は、`powerpackforweblogicportal_typical.pbd` を有効にします。この PBD には、ポータルサーバのクリティカルなコンポーネントのパフォーマンスを監視するために有効にされる、クリティカルなトレーサのみが含まれます。
- 完全設定の場合は、`powerpackforweblogicportal_full.pbd` を有効にします。この PBD には、ポータルサーバのすべてのコンポーネントのパフォーマンスを監視するための、すべてのトレーサが含まれます。

CA APM for Oracle WebLogic Portal の PBL ファイルは、デフォルトでは標準設定（powerpackforweblogicportal_typical.pbd）が有効になり、完全設定（powerpackforweblogicportal_full.pbd）が無効になっています。

powerpackforweblogicportal_typical.pbd を使用する場合は、Investigator ツリーに以下のノードが表示されます。

- [Authentication]、[Content Management]、[Desktops]、[Entitlements]、[WSRP] ノードが、[WebLogic Portal] ノード下に表示されます。
- ブック、ページ、およびポートレットでは、メソッドレベルの追跡は行えません。powerpackforweblogicportal_typical.pbd を使用すると、すべてのメトリックは、対応するライフサイクルメソッドではなく、コンポーネント（ブック、ページ、またはポートレットのいずれか）の直下に表示されます。
- ポートレットの場合は、[Average Response Time] と [Responses Per Interval] メトリックのみが標準設定で表示されます。ブックとページの場合は、[Average Response Time]、[Incremental Response Time]、および [Responses Per Interval] メトリックのみが標準設定で表示されます。ストール数がレポートされる場合は、それぞれのノードの下に表示されます。

注: powerpackforweblogicportal_error.pbd を有効にしている場合は、標準設定のそれぞれのノード下に [Errors Per Interval] がレポートされます。

powerpackforweblogicportal_full.pbd を使用する場合は、Investigator ツリーに以下のノードが表示されます。

- [Authentication]、[Content Management]、[Desktops]、[Entitlements]、[J2EE Portlet API]、[Java Page Flows]、[NetUix Control]、[Personalization]、[Presentation Contexts]、[Profile Factory]、[Profile Manager]、[WSRP]、および [Workshop Controls] ノードが、[WebLogic Portal] ノード下に表示されます。

注: [J2eePortlet] ノードと [NetUixControls] ノードを表示するには、モードに応じて powerpackforweblogicportal_typical.pbd または powerpackforweblogicportal_full.pbd の NetUixControl および J2eePortlet フラグをオンにします。

- ブック、ページ、およびポートレットでは、メソッドレベルの追跡が行えます。 `powerpackforweblogicportal_full.pbd` を使用すると、すべてのメトリックが対応するライフサイクルメソッドの直下に表示されます。
- ポートレットの場合は、5つのメトリック（[Average Response Time]、[Responses Per Interval]、[Concurrent Invocations]、[Errors Per Interval]、および [Stall Count]）が完全設定で表示されます。ブックおよびページの場合は、6つのメトリック（[Average Response Time]、[Responses Per Interval]、[Incremental Response Time]、[Concurrent Invocations]、[Errors Per Interval]、および [Stall Count]）が完全設定で表示されます。

注: [Errors Per Interval] を表示するには、`powerpackforweblogicportal.pbl` ファイルの `powerpackforweblogicportal_errors.pbd` を有効にします。

[WebLogic Portal] - [Desktops] - [*<Desktop_name>*] - [Book] - [*<Book_name>*] - [Page] - [*<Page_name>*] ノード下のページの場合は、[Average Response Time]、[Incremental Response Time]、および [Responses Per Interval] メトリックのみが標準および完全設定で表示されます。

[WebLogic Portal] - [Desktops] - [*<Desktop_name>*] - [Page] - [*<Page_name>*] - [Portlet] - [*<Portlet_name>*] ノード下のポートレットの場合は、[Average Response Time] および [Responses Per Interval] メトリックのみが標準および完全設定で利用可能です。

注: [Incremental Response Time] は、ページとブックにのみ表示されます。ポートレットには、[Incremental Response Time] はありません。

[WebLogic Portal] - [WSRP] - [Producer] - [*<consumer_host>*]-[*<producer_url>*] ノード下のポートレットの場合は、[Average Response Time] および [Responses Per Interval] メトリックのみが標準および完全設定で表示されます。

標準設定のメトリックの表示

標準設定では、クリティカルなコンポーネントの6つすべてのメトリック、または追跡されているクリティカルコンポーネント以外のコンポーネントのメトリックを表示できます。

次の手順に従ってください:

1. powerpackforweblogicportal_typical.pbd の BlamePoint メトリックのエントリを、以下のように *false* から *true* に変更します。
 - SetTracerParameter:PortalBlamePointTracer
forcestandardblamemetrics true
 - SetTracerParameter:PortalServletTracer forcestandardblamemetrics true
 - SetTracerParameter:ControlBlamePointTracer
forcestandardblamemetrics true
 - SetTracerParameter:TLRControlWalkerAwareBlamePointTracer
forcestandardblamemetrics true
 - SetTracerParameter:WSRPProxyBlamePointTracer
forcestandardblamemetrics true
2. ポータルサーバを再起動して、変更を有効にします。

重要: 標準設定を有効にする場合は、
PowerpackForWeblogicPortal_ManagementModule_typical.jar を
<Introscope_Home>\¥config¥modules ディレクトリにコピーします。

[WebLogic Portal] - [Desktops] - [Book node and WebLogic Portal] -
[Desktops] - [Book] - [Page] ノード下のブックおよびページの場合
は、[Average Response Time]、[Incremental Response Time]、およ
び [Responses Per Interval] メトリックのみが標準および完全設定で表
示されます。

[WebLogic Portal] - [Desktops] - [Page node and WebLogic Portal] -
[Desktops] - [Page] - [Portlet] ノード下のページおよびポートレ
ットの場合は、[Average Response Time] および [Responses Per Interval]
メトリックのみが標準および完全設定で表示されます。

注: [Incremental Response Time] は、ページとブックにのみ表示され
ます。ポートレットには、[Incremental Response Time]はありません。

標準設定で、より多くの WebLogic Portal コンポーネントを追跡できます。

次の手順に従ってください:

1. powerpackforweblogicportal_typical.pbd の関連するトレーサのコメント
化を解除して、トレーサを有効にします。
2. ポータルサーバを再起動して、変更を有効にします。

完全設定のメトリックの表示

完全設定では、ポータルサーバのすべてのコンポーネントのパフォーマンスを監視できます。

次の手順に従ってください:

1. `powerpackforweblogicportal_typical.pbd` エントリをコメント化するかまたは無効にし、`powerpackforweblogicportal.pbd` の `powerpackforweblogicportal_full.pbd` エントリのコメント化を解除するかまたは有効にします。
2. ポータルサーバを再起動して、変更を有効にします。

注: 完全設定を有効にする場合は、

`PowerpackForWeblogicPortal_ManagementModule_full.jar` を

`<Introscope_Home>%config\modules` ディレクトリにコピーして、完全設定用のダッシュボードを表示します。

完全設定を有効にすると、原因であるコンポーネントの切り分け、診断、検出を詳細に行って、エラーを修正することができます。

注: `powerpackforweblogicportal_typical.pbd` と

`powerpackforweblogicportal_full.pbd` は同時に有効にしないでください。

同時に有効にすると、Investigator ツリーの親レベルノードで集約メトリックを表示する際に競合が発生する場合があります。その結果、Introscope Enterprise Manager から例外がスローされることがあります。

標準設定および完全設定での追跡の無効化

標準設定または完全設定でのコンポーネントの追跡を無効化することもできます。

次の手順に従ってください:

1. `powerpackforweblogicportal_typical.pbd` または `powerpackforweblogicportal_full.pbd` 内の関連するトレーサをコメント化して、トレーサを無効にします。
2. ポータルサーバを再起動して、変更を有効にします。

エラーの検索

いずれかのライフサイクルメソッドで Investigator ツリーにレポートされているエラーを検索できます。

次の手順に従ってください:

1. `powerpackforweblogicportal.pbl` ファイル内の `powerpackforweblogicportal_errors.pbd` エントリのコメント化を解除するかまたは有効にします。
2. ポータルサーバを再起動して、変更を有効にします。

`powerpackforweblogicportal_errors.pbd` は、15 秒のタイムスライスで Java 例外をキャッチしてエージェントが記録したエラー数をレポートします。エラーは、PBD で追跡されているクラスのメソッドに対して記録されます。

`powerpackforweblogicportal_errors.pbd` ファイルが有効になっている場合は、エラーは標準設定と完全設定の両方でレポートされます。`powerpackforweblogicportal_errors.pbd` ファイルが有効になっている場合、標準設定ではエラーがレポートされます。ただし、完全設定の場合は、[Errors Per Interval] のノードは Investigator ツリー内に存在しますが、値はレポートされません。

完全設定で `powerpackforweblogicportal_errors.pbd` ファイルが有効になっている場合、メソッドレベルの追跡で利用可能なその他のメトリックと共に **Errors Per Interval** メトリックが取得されます。この設定を行うと、ユーザがよりよい方法で問題切り分けを行うために必要なすべての詳細を取得するのに役立ちます。したがって、完全設定では `powerpackforweblogicportal_errors.pbd` ファイルを使用することをお勧めします。

デバッグの有効化

WSRP のデバッグを有効にすると、相当な量のオーバーヘッドを引き起こすため、注意が必要です。このトレーサは詳細をすべて取得するのに役立ちますが、ほとんどの実運用環境では弊害が生じます。

次の手順に従ってください:

1. `powerpackforweblogicportal_typical.pbd` または `powerpackforweblogicportal_full.pbd` 内の `WsrpHighOverheadDebug` トレーサのコメント化を解除するかまたは有効にします。
2. ポータルサーバを再起動して、変更を有効にします。

注: `WsrpHighOverheadDebug` トレーサを有効にした場合、Investigator の WSRP の下に [Debug] ノードが表示されます。

バージョン互換性用の PBD の設定

WebLogic Portal Server 9.2 を使用している場合は、`powerpackforweblogicportal_typical.pbd` および `powerpackforweblogicportal_full.pbd` ファイルで、WebLogic Portal Server 10.x 用のトレーサを無効にし、9.2 用のトレーサを有効にします。このようにしない場合、トレーサに関連するエラーがエージェント ログにレポートされます。

次の手順に従ってください:

1. `powerpackforweblogicportal_typical.pbd` および `powerpackforweblogicportal_full.pbd` ファイルで、以下のトレーサを無効にするかまたはコメント化します。
TurnOn: WSRPConsumerTracing10
2. `powerpackforweblogicportal_typical.pbd` および `powerpackforweblogicportal_full.pbd` ファイルで、以下のトレーサの有効にするかまたはコメント化を解除します。
TurnOn: WSRPConsumerTracing92

これで、バージョン互換性用の PBD が設定されました。

(オプション) URL の除外リストの作成

監視対象から除外する URL のリストを定義できます。

URL の除外リストを作成するには、以下の手順に従います。

1. アプリケーション起動ファイルに、`com.wily.wlp.excludelist.override` システムプロパティを作成して追加します。

```
-Dcom.wily.wlp.excludelist.override="<監視対象から除外する URL のリスト>"
```

URL はカンマ記号で区切ります。例：

```
-Dcom.wily.wlp.excludelist.override="http://abc-xyz/console/console.portal,  
http://abc-xyz/contentpresenter/"
```

注：アプリケーション起動スクリプトのファイル名は、Windows では `startWeblogic.cmd`、UNIX では `startWeblogic.sh` です。このスクリプトは、`<WL_Home>¥samples¥domains¥portal¥bin¥` ディレクトリにあります。

2. 起動スクリプトを保存してから、ポータルサーバを再起動します。

PowerPack for WebLogic Portal のクラスタ化

クラスタ化によって、Enterprise Manager は、MOM (Manager of Managers) として機能して、ほかの Enterprise Manager を管理できます。管理される Enterprise Manager は、コレクタと呼ばれます。クラスタ環境で、CA APM for Oracle WebLogic Portal を各コレクタにインストールおよび設定します。

次の手順に従ってください：

1. [CA APM for Oracle WebLogic Portal の Enterprise Manager コンポーネントをインストールします \(P. 15\)](#)。

注：CA APM for Oracle WebLogic Portal のすべての Enterprise Manager 拡張機能および計算機は、すべてのコレクタに配置する必要があります。

2. CA APM for Oracle WebLogic Portal のエージェント コンポーネントをインストールします。

注：クラスタ環境に設定されたエージェントは、`IntroscopeAgent.profile` ファイル内のプロパティを使用して、MOM に接続する必要があります。

3. 標準、完全、エラー PBD の PBL ファイルを設定します。
4. [バージョン互換性用の PBD を設定します \(P. 24\)](#)。
5. [URL の除外リストを作成します \(P. 25\)](#)。

MOM 上での JavaScript 計算機の実行

MOM 上で JavaScript 計算機を実行して、MOM エージェント用のメトリックを作成することができます。コレクタに接続されているエージェントのメトリックを計算機によって作成することはできませんが、コレクタ内のエージェントから入力メトリックを表示することはできます。

クラスタ環境で計算機を追加、変更、または削除した場合、自動更新をオフにしない限り、MOM は変更をすべてのコレクタにコピーします。詳細については、「CA APM Workstation ユーザガイド」を参照してください。

runOnMOM 関数の使用

MOM で実行すべきでない JavaScript 計算機は、以下の例のように、`false` を返す `runOnMOM` 関数を実装する必要があります。

```
// スクリプトを MOM で実行できない場合 false を返します
// デフォルトは true です
runOnMOM() 関数
{
    return false;
}
```

`runOnMOM` 関数が `true` を返す場合、JavaScript 計算機は MOM 上で実行されます。

CA APM for Oracle WebLogic Portal の無効化

CA APM for Oracle WebLogic Portal のインストール時にコピーしたファイルを削除します。また、*IntroscopeAgent.profile* ファイルとアプリケーションの起動スクリプトから、プロパティと環境変数に関連するエントリを削除します。

次の手順に従ってください:

1. エージェントシステム上の関連するディレクトリから以下のファイルを削除します。
 - `<WL_Home>%wily%ext` から *PowerPackforWeblogicPortal_ext.jar* を削除。
 - `<WL_Home>%wily` から *powerpackforweblogicportal.pbl*、*powerpackforweblogicportal.pbd*、*powerpackforweblogicportal_errors.pbd*、*powerpackforweblogicportal_full.pbd*、および *powerpackforweblogicportal_typical.pbd* を削除。
2. Enterprise Manager の対応するディレクトリから以下のファイルを削除します。
 - `<Introscope_Home>%config%modules` から *PowerpackForWeblogicPortal_ManagementModule_typical.jar* を削除。
 - `<Introscope_Home>%config%modules%portal` から *PowerpackForWeblogicPortal_ManagementModule_full.jar* を削除。
 - `<Introscope_Home>%product%enterprisemanager%plugins` ディレクトリから *com.wily.powerpack.weblogicportal.em.ext.jar* および *com.wily.powerpack.weblogicportal.em.service.jar* を削除。
 - `<Introscope_Home>%ws-plugins` および `<Introscope_WS_Home>%config%internal%console%ws-plugins` ディレクトリから *com.wily.powerpack.weblogicportal.ws.ext.jar* を削除。

3. <WL_Home>¥wily ディレクトリにある *IntroscopeAgent.profile* ファイルを開き、*introscope.autoprobe.directivesFile* プロパティから *powerpackforweblogicportal.pbl* を削除します。
4. 該当する場合、アプリケーションサーバ起動スクリプト (*startWeblogic.cmd* または *startWeblogic.sh*) から *com.wily.wlp.excludelist.override* システム プロパティを削除します。

以上で、CA APM for Oracle WebLogic Portal が無効になりました。

第 3 章: CA APM for Oracle WebLogic Portal の使用

CA APM for Oracle WebLogic Portal では、WebLogic Portal コンポーネントを監視し、その稼働状況と可用性のメトリックを Introscope に表示することができます。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[WebLogic Portal の監視 \(P. 29\)](#)

[ダッシュボードの表示 \(P. 31\)](#)

[メトリックの表示 \(P. 37\)](#)

[パフォーマンスが最も非効率的なコンポーネントの表示 \(P. 38\)](#)

[オペレーションのサンプルシナリオ \(P. 44\)](#)

WebLogic Portal の監視

Investigator およびコンソールにリアルタイムのメトリック データを表示して、WebLogic Portal の稼働状況、可用性、およびパフォーマンスを監視できます。

WebLogic Portal のメトリック

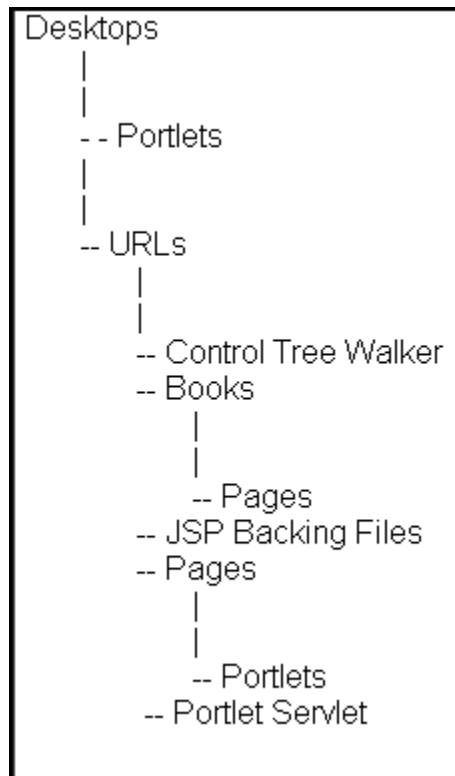
WebLogic Portal の各オペレーションでは、以下のメトリックが表示されます。

- **Average Response Time** (平均レスポンス時間) (ms) : 特定のオペレーションまたはアクションを実行または呼び出すのにかかる平均時間。
- **Concurrent Invocations** (同時進行中の呼び出し) : 一定の時間で行われた要求数 (処理量) 。
- **Errors Per Interval** (間隔ごとのエラー数) : 15 秒のタイム スライスで Java 例外をキャッチしてエージェントが記録したエラー数。

- Responses Per Interval（間隔ごとの応答数）：15 秒のタイム スライス内で完了した呼び出し数。
- Incremental Response Time（増分応答時間）：15 秒のタイム スライス内でのライフサイクルフェーズ実行の所要時間。
- Stall Count（ストール数）：30 秒を超えるオペレーション、呼び出し、コールの数を 15 秒のタイム スライスで表示。

Investigator ツリー内の [WebLogic Portal] - [Desktops] ノードの下に、[Portlets] および [URLs] ノードが表示されます。[WebLogic Portal] - [Desktops] - [URLs] ノードの下には、[Control Tree Walker]、[Books]、[Pages]、[JSP Backing Files,]、および [Portlet Servlet] ノードが表示されます。[WebLogic Portal] - [Desktops] - [URLs] - [Books] の下には、そのブックに属するページが表示され、[WebLogic Portal] - [Desktops] - [URLs] - [Pages] ノードの下には、そのページに属するポートレットが表示されます。

以下のスクリーンショットは、この階層を図示していします。



パフォーマンスが低いコンポーネント

CA APM for Oracle WebLogic Portal は、パフォーマンスが低いコンポーネントをテーブルビューで表示します。WebLogic Portal のコンポーネントのメトリックを表示する参照ツリーノードでは、対応するテーブルビューの右側の [ポータル] タブの下の [ビューア] ペインに、関連するコンポーネントが表示されます。

パフォーマンスが最も非効率的なコンポーネントの表示

テーブルビューには以下の情報が表示されます。

- WebLogic Portal で最もパフォーマンスが低いブック、ページ、およびポートレット。
- コンポーネントは平均応答時間に基づいて並び替えられています。

パフォーマンスが最も非効率的なコンポーネントのグラフィカルビュー

テーブルビューの平均応答時間に基づいて、パフォーマンスが最も非効率的なコンポーネントを識別します。次に、ポータル上のパフォーマンスが最も非効率的なコンポーネントの全体的な影響を調査します。

テーブルビューに基づくグラフィカルビューは、パフォーマンスが最も非効率的なコンポーネントとほかのポータルコンポーネントの関係についての概要を表示します。この視点は、パフォーマンスが最も非効率的なコンポーネントがポータルサーバ内のほかのコンポーネントにどのように影響するかを理解するのに役立ちます。

ダッシュボードの表示

CA APM for Oracle WebLogic Portal のダッシュボードでは、アプリケーションのメトリックを統合してビューに表示するため、ユーザはそのビューを使用してアプリケーション環境を監視できます。ダッシュボードは、デプロイされたすべてのエージェントにわたるデータを集計して、問題を迅速に診断して解決するための、パフォーマンスに関する詳細な情報を提供します。

ダッシュボードでは、以下のものが提供されます。

- アプリケーションの全般的な稼働状況とステータスを示すビュー。
- 実運用アプリケーション環境での問題をひと目で確認できる通知。
- 問題をすばやく識別することが可能なデータ。
- パフォーマンスの概要情報と詳細情報との間の事前に定義されたナビゲーション。

管理モジュールの *PowerpackForWeblogicPortal_ManagementModule_full.jar* ファイルおよび

PowerpackForWeblogicPortal_ManagementModule_typical.jar ファイルでは、CA APM for Oracle WebLogic Portal のダッシュボードが事前定義されています。

重要: <Introscope_home>%config%modules ディレクトリに *PowerpackForWeblogicPortal_ManagementModule_full.jar* と *PowerpackForWeblogicPortal_ManagementModule_typical.jar* を同時に配置することはできません。

ダッシュボードはアプリケーション全体のヘルス状態を示すアラートと関連しています。各信号機の色には、対応するメトリックの値があります。

- 灰色は、使用できるデータがないことを表しています
- 緑は、「OK」を表しています。
- 黄は、「警告」を表しています。
- 赤は、「危険」を表しています。

次の手順に従ってください:

デフォルトでは、

PowerpackForWeblogicPortal_ManagementModule_typical.jar は
<Introscope_Home>%config%modules ディレクトリにあります。また、
PowerpackForWeblogicPortal_ManagementModule_full.jar は
<Introscope_Home>%config%modules%portal ディレクトリにあります。

1. 完全設定を有効にする場合は、
PowerpackForWeblogicPortal_ManagementModule_full.jar を
<Introscope_Home>%config%modules ディレクトリにコピーします。標準
設定を有効にする場合は、
PowerpackForWeblogicPortal_ManagementModule_typical.jar を
<Introscope_Home>%config%modules ディレクトリにコピーします。
2. アプリケーションがインストールされていて、データを提供して
いることを確認します。
3. Enterprise Manager が実行していることを確認します。
4. [スタート] - [プログラム] - [CA APM] - [Introscope <version>] -
[Introscope Workstation] をクリックして、Workstation を起動します。
5. Workstation にログインします。
Introscope Workstation が表示されます。
6. [Workstation] - [新規コンソール] をクリックして Introscope
Workstation コンソールに移動します。
7. ドロップダウンリストから以下のダッシュボードのいずれかを選択
します。
 - 標準設定の場合は、以下のダッシュボードが利用可能です。
 - CA APM for Oracle WebLogic Portal (標準) - 認証
 - CA APM for Oracle WebLogic Portal (標準) - 概要
 - CA APM for Oracle WebLogic Portal (標準) - ポータル サービス
 - CA APM for Oracle WebLogic Portal (標準) - コンテンツ管理
 - CA APM for Oracle WebLogic Portal (標準) - コントロール ツリー
処理
 - CA APM for Oracle WebLogic Portal (標準) - 資格情報
 - CA APM for Oracle WebLogic Portal (標準) - ポートレット
 - CA APM for Oracle WebLogic Portal (標準) - WSRP

- 完全設定の場合は、以下のダッシュボードが利用可能です。
 - CA APM for Oracle WebLogic Portal (完全) - 概要
 - CA APM for Oracle WebLogic Portal (完全) - 認証
 - CA APM for Oracle WebLogic Portal (完全) - コンテンツ管理
 - CA APM for Oracle WebLogic Portal (完全) - コントロール ツリー処理
 - CA APM for Oracle WebLogic Portal (完全) - 資格情報
 - CA APM for Oracle WebLogic Portal (完全) - JSP バックギング ファイル
 - CA APM for Oracle WebLogic Portal (完全) - Java ページフロー
 - CA APM for Oracle WebLogic Portal (完全) - パーソナライゼーション
 - CA APM for Oracle WebLogic Portal (完全) - ポータル サービス
 - CA APM for Oracle WebLogic Portal (完全) - ポートレット
 - CA APM for Oracle WebLogic Portal (完全) - プレゼンテーション コンテキスト
 - CA APM for Oracle WebLogic Portal (完全) - ユーザ プロファイル
 - CA APM for Oracle WebLogic Portal (完全) - WSRP
- 8. ダッシュボードを使用して詳細を表示するには、「[ダッシュボードを使用して詳細情報を表示する方法](#) (P. 37)」を参照してください。

ダッシュボード

標準および完全設定では、以下のダッシュボードが利用可能です。

- 標準設定を使用して **WebLogic Portal** を監視するとき、最初に表示されるビューは概要ダッシュボードです。このダッシュボードには、**WebLogic Portal** のクリティカル コンポーネントの全体的なパフォーマンスが表示されます。各コンポーネントは、その全般的な稼働状況を表すアラートと関連付けられています。
- **CA APM for Oracle WebLogic Portal** (標準) - 認証
このダッシュボードには、認証サービスの全般的な稼働状況が表示されます。
- **CA APM for Oracle WebLogic Portal** (完全) - 認証
このダッシュボードには、**Basic User Form Authentication**、**Authenticate Users**、**Run as Users**、**Access Checks**、**Get Roles**、**Adjudicate Results**、および **Validate Principals** トリック カテゴリのメトリックを表示することにより、認証の全般的な稼働状況が表示されます。
- **CA APM for Oracle WebLogic Portal** (標準/完全) - コンテンツ管理
このダッシュボードには、**Node Hierarchy - Get Node**、**Node Properties**、および **Search** メトリック カテゴリのメトリックを表示することにより、コンテンツ管理の全般的な稼働状況が表示されます。
- **CA APM for Oracle WebLogic Portal** (標準/完全) - コントロール ツリー 処理
このダッシュボードには、コントロール ツリー処理の全般的な稼働状況が表示されます。
- **CA APM for Oracle WebLogic Portal** (標準/完全) - 資格情報
このダッシュボードには、**Get Roles**、**Is Access Allowed**、および **Is User In Role** メトリック カテゴリのグラフを表示することにより、資格情報の全般的な稼働状況が表示されます。
- **CA APM for Oracle WebLogic Portal** (標準/完全) - ポータル サービス
このダッシュボードには、ポータル サービスの全般的な稼働状況が表示されます。
- **CA APM for Oracle WebLogic Portal** (標準/完全) - ポートレット
このダッシュボードには、ポートレットの全般的な稼働状況が表示されます。

- CA APM for Oracle WebLogic Portal (標準/完全) - WSRP

このダッシュボードには、プロデューサとコンシューマのメトリックを表示することにより、WSRP (Web Services for Remote Portlets) の一般的な稼働状況が表示されます。

- CA APM for Oracle WebLogic Portal (完全) - JSP バックアップ ファイル

このダッシュボードには、Init、Handle Postback Data、および Pre-render メトリック カテゴリのメトリックを表示することにより、JSP バックアップ ファイルの一般的な稼働状況が表示されます。

- CA APM for Oracle WebLogic Portal (完全) - Java ページフロー

このダッシュボードには、Java ページフローおよびページフロー コンテンツの一般的な稼働状況が表示されます。

- CA APM for Oracle WebLogic Portal (完全) - パーソナライゼーション

このダッシュボードには、Advisor および Advislet メトリック カテゴリのメトリックを表示することにより、パーソナライゼーションの一般的な稼働状況が表示されます。

- CA APM for Oracle WebLogic Portal (完全) - プレゼンテーション コンテキスト

このダッシュボードには、プレゼンテーション コンテキストの一般的な稼働状況が表示されます。

- CA APM for Oracle WebLogic Portal (完全) - ユーザ プロファイル

このダッシュボードには、プロフィール マネージャおよびプロフィール ファクトリのメトリックを表示することにより、ユーザ プロファイルの一般的な稼働状況が表示されます。

ダッシュボードの表示

ダッシュボードを使用して、問題を引き起こしている **WebLogic Portal** のコンポーネント、サービス、または機能の問題切り分けを行うことができます。

次の手順に従ってください:

- アラートをダブルクリックして、そのアラートに関連付けられているダッシュボードを開きます。
- [詳細] をクリックして、そのコンポーネントまたはダッシュボードに関連付けられている詳細を表示します。
- グラフまたはアラートを右クリックし、[リンク] をクリックします。管理モジュールの対応するアラートに移動するか、または関連付けられているほかのダッシュボードに移動します。
- 最も遅い 10 件のメトリック データを表示するグラフからメトリックをダブルクリックすると、その詳細が **Investigator** に表示されます。

メトリックの表示

Investigator ツリーでメトリックを選択すると、メトリックのデータは右側の [ビューア] ペインにグラフィカルな形式で表示されます。 **Investigator** で表示されるメトリックは、アプリケーションが使用するリソースによって異なります。

Investigator でメトリックを表示する方法

1. アプリケーションがインストールされていて、データを提供していることを確認します。
2. **Enterprise Manager** が実行していることを確認します。
3. **Workstation** または **WebView** にアクセスして、 **Investigator** のユーザ インターフェイスを使用します。

4. WebLogic Portal に固有のメトリックは、[*SuperDomain*] - [<Hostname>] - [WebLogic] - [WebLogic Agent] - [WebLogic Portal] ノードの下に表示されます。
5. [WebLogic Portal] ノードを展開します。
WebLogic Portal のメトリック データが、[WebLogic Portal] ノードのサブノードの下に表示されます。表示されるサブノードは、使用している設定のタイプによって異なります。詳細については、「[標準、完全、エラー PBD の PBL ファイルの設定 \(P. 18\)](#)」を参照してください。
6. [WebLogic Portal] ノードのサブノードを展開すると、個々のポータル コンポーネント、サービス、機能、およびメトリックがその下にリスト表示されます。

注: Investigator に表示されるメトリックは、アプリケーションが使用するポータルリソースによって異なります。CA APM for Oracle WebLogic Portal によって収集されるパフォーマンス メトリックの完全なリストについては、「[メトリック \(P. 47\)](#)」を参照してください。

パフォーマンスが最も非効率的なコンポーネントの表示

ポータル サーバのパフォーマンスが最も非効率的なコンポーネントを Investigator に表示することができます。パフォーマンスが最も非効率的なブック、ページ、およびポートレットが、[ビューア] ペインのテーブルに表示されます。コンポーネントは平均応答時間でソートされます。パフォーマンスが最も非効率的なコンポーネントのテーブルに基づいたグラフィカル ビューを生成し、それらがポータルのほかのコンポーネントに与えている影響を表示できます。

次の手順に従ってください:

1. Investigator で、[WebLogic Portal] ノードか、[Desktops]、[JavaPortlet]、[Portlet]、[<Desktop_name>]、[ProxyPortlet]、[Book]、または [Page] など、そのノードのいずれかのノードをクリックし、パフォーマンスが最も非効率的なコンポーネントを表示します。

[ビューア] ペインでは、デフォルトで [ポータル] タブがアクティブになります。選択したノードに応じて、コンポーネントのリストがテーブルに表示されます。以下のセクションに、各ノードで表示されるコンポーネントの詳細が表示されます。

- **WebLogic Portal**

ブック、ページ、ポートレット、Java ポートレット、およびプロキシポートレット。

- [WebLogic Portal] - [Desktops]

ブック、ページ、ポートレット、Java ポートレット、およびプロキシポートレット。

- [WebLogic Portal] - [Desktops] - [Portlet]

ポータルサーバにあるすべてのポートレット。

- [WebLogic Portal] - [Desktops] - [JavaPortlet]

ポータルサーバにあるすべての Java ポートレット。

- [WebLogic Portal] - [Desktops] - [ProxyPortlet]

ポータルサーバにあるすべてのプロキシポートレット。

- [WebLogic Portal] - [Desktops] - [<Desktop_name>]

<Desktop_name> の一部であるブックおよびページ。

- [WebLogic Portal] - [Desktops] - [<Desktop_name>] - [Book]

<Desktop_name> の一部であるすべてのブック。

- [WebLogic Portal] - [Desktops] - [<Desktop_name>] - [Pages]

<Desktop_name> の一部であるすべてのページ。

各コンポーネントのコンポーネント名、コンポーネントタイプ、平均応答時間、および間隔ごとの応答数を表示できます。

注: パフォーマンスが最も非効率的なコンポーネントのテーブルビューで、ポートレットのみに関して、[デスクトップ名]列でポートレットが属するデスクトップを表示できます。ブックとページの場合は、ブックとページが属する実際のデスクトップを[デスクトップ名]列に表示できます。

2. [WebLogic Portal] ノードを選択した場合は、[コンポーネントタイプ] ドロップダウンリストから [すべて]、[ブック]、[ページ]、[ポートレット]、[Java ポートレット]、または [プロキシポートレット] を選択し、[上位 N 件] ドロップダウンリストから数を選択できます。

注: ここで、N は 10、100、または 500 です。また、[上位 N 件] には 10、100、500 以外の数を入力することもできます。

[上位 N 件] に 25 を超える数を選択すると、Workstation のパフォーマンスに影響を与えます。

同じタイプの上位 N 件のパフォーマンスが最も非効率的なコンポーネントを表示するには、コンポーネントタイプと数値 N を選択します。たとえば、[ブック] と数値 N を選択すると、パフォーマンスが最も非効率的な N 件のブックが表示されます。

[コンポーネントタイプ] ドロップダウンリストと [上位 N 件] ドロップダウンリストは、[WebLogic Portal] ノードまたは [Desktops] ノードを選択した場合にのみ使用できます。[WebLogic Portal] ノードおよび [Desktops] ノード以外のノードを選択した場合は、これらのドロップダウンリストは使用できません。

3. 以下のタスクのいずれか1つを実行します。

- コンポーネントを選択し、[詳細]を選択します。

選択したコンポーネントに応じて、[ビューア] ペインに以下のテーブルが表示されます。

- [ビューア] ペインの一番上のテーブルには、選択したコンポーネントの子コンポーネントが表示されます。

このテーブルには、パフォーマンスが最も非効率的な子コンポーネント 10 件だけが表示されます。このテーブルには、子コンポーネントの集約された平均応答時間および集約された間隔ごとの応答数も表示されます。

- [ビューア] ペインの一番下のテーブルには、選択したコンポーネントの親コンポーネントが表示されます。

このテーブルには、パフォーマンスが最も非効率的な親コンポーネント 10 件だけが表示されます。このテーブルには、平均応答時間と間隔ごとの応答数も表示されます。これらは、選択したコンポーネントの親コンポーネントに対する平均応答時間と間隔ごとの応答数です。

注: ポートレットを選択して [詳細] をクリックすると、選択したポートレットの親コンポーネントに対するテーブルが 1 つだけ表示されます。

たとえば、テーブル ビューでページを選択して [詳細] をクリックすると、以下の詳細を表示できます。

- [ビューア] ペインの一番上のテーブルには、選択したページのパフォーマンスが最も非効率的なポートレット 10 件が表示されます。

このテーブルには、パフォーマンスが最も非効率的なポートレット 10 件だけが表示されます。このテーブルには、集約された平均応答時間と、集約されたポートレットの間隔ごとの応答数も表示されます。

- [ビューア] ペインの一番下のテーブルには、選択したページが属するブックが表示されます。このテーブルに表示された平均応答時間と間隔ごとの応答数は、テーブルに表示されたブックに対する平均応答時間と間隔ごとの応答数です。

以下の表では、各コンポーネントに対して表示できる詳細の概要について説明します。

コンポーネント	詳細
ブック	一番上のテーブルには、選択したブックのページのリストが表示されます。 一番下のテーブルには、選択したブックを含むデスクトップのリストが表示されます。
ページ	一番上のテーブルには、選択したページのポートレットのリストが表示されます。 一番下のテーブルには、選択したページを含むブックのリストが表示されます。
ポートレット	一番上のテーブルには、選択したポートレットを含むページのリストが表示されます。 一番下のテーブルは表示されません。
Java ポートレット	一番上のテーブルには、選択した Java ポートレットを含むページのリストが表示されます。 一番下のテーブルは表示されません。
プロキシ ポートレット	一番上のテーブルには、選択したプロキシ ポートレットを含むページのリストが表示されます。 一番下のテーブルは表示されません。

- [グラフを生成] をクリックします。

グラフを生成したテーブルに基づいたグラフィカル ビューが表示されます。

グラフィカル ビューに以下の詳細が表示されます。

- ルート名 (Weblogic Portal)
- ノード内のデスクトップ、ブック、ページ、およびポートレットの名前
- グラフが生成されたときの日付とタイム スタンプ。
- グラフに表示されているコンポーネントの数。
- テーブル ビューに表示されるパフォーマンスが最も非効率的なコンポーネントの最大 20 件が、グラフの作成に使用されます。
- グラフの各レベルにおいて、表示されるノードの数は 20 に制限されています。

注: グラフ ビューの個々のコンポーネントがどのように選択されるかについては、FAQ セクションを参照してください。

- グラフ内のノードには、平均応答時間と間隔ごとの応答数に対する値が設定されています。これらの値は、グラフを作成したテーブル ビューから得られたものです。
- グラフ内のエッジには、平均応答時間と間隔ごとの応答数に対する値が設定されています。これらの値は、その親コンポーネントに対する子コンポーネントのパフォーマンスを示します。たとえば、**portlet1** と **page1** との間のエッジの平均応答時間と間隔ごとの応答数は、**page1** の **portlet1** の平均応答時間と間隔ごとの応答数を表します。
- 各ノードタイプは、コンポーネントに対する一意のアイコンで識別されます。
- グラフ ビューを生成するためにテーブル ビューから取得されたコンポーネントは、青色の背景で強調表示されます。
 - a. グラフでは、以下のアクションを実行できます。

- b. グラフ全体の概要を表示するには、グラフィカルビューの右下にあるチェックボックスをオンにします。この概要を使用して、グラフの内容のパンやズームを行うことができます。このチェックボックスをオフにすると、概要は表示されません。
- c. [戻る] をクリックして、パフォーマンスが低いコンポーネントをリスト表示するテーブルビューに戻ります。

現在表示されているテーブルビューは、リフレッシュされたビューです。
[戻る] をクリックする前に、グラフを保存します。

Investigator のテーブルおよびグラフィカルビューを使用して、パフォーマンスが最も非効率的なコンポーネントを表示し、それらがどのようにほかのコンポーネントに影響するかを確認しました。

オペレーションのサンプルシナリオ

このセクションでは、CA APM for Oracle WebLogic Portal が問題の解決に役立つ典型的な実運用設定の状況について説明します。

カスタマ: 問題の発生

担当のオペレータが、監視対象システムのいずれかでパフォーマンスまたは可用性の問題が発生していることを示す問題エスカレーションを受信します。そのオペレータは、どのシステムが根本原因であるかも、それを修正する方法も知りません。オペレータは、その問題を解決するには誰に連絡すればいいかだけを知りたいのです。

データセンターオペレータ: 赤色のインジケータに対応

データセンターオペレータが、ポートレットのアラートが [CA APM for Oracle WebLogic Portal (標準) -- 概要] ダッシュボードで赤色になっていることに気づきます。これは、ポータルに問題があることを示します。

以下のタスクを実行して、問題のエスカレーションに対応します。

1. ダッシュボード内の[詳細]をダブルクリックして、[CA APM for Oracle WebLogic Portal (標準) -- ポートレット] ダッシュボードに切り替えます。

このダッシュボードには、最も遅い平均応答時間と間隔ごとの応答数の上位 10 件の情報が表示されます。システム内のほかのポートレットに比べて、1 つのポートレットが、レンダリング前により多くの時間を費やしています。バーにマウスカーソルを置くと、詳細が表示されます。

2. ダッシュボードの情報の一部をコピーし、アプリケーション サポート スペシャリストに提供します。

アプリケーション サポート スペシャリスト: パフォーマンスが最も非効率的な WebLogic Portal コンポーネントを表示

アプリケーション サポート スペシャリストは、パフォーマンスに関する問題の報告を頻繁に受理します。サポート担当者は、問題の原因を絞り込み、適切なチームにエスカレートする必要があります。

アプリケーションサポート スペシャリストは、以下のタスクを実行します。

1. **Investigator** で [WebLogic Portal] ノードからパフォーマンスが最も非効率的なコンポーネントを表示して、テーブルを使用して問題を絞り込みます。

スペシャリストは、平均応答時間がポートレットに対して高いことに気がつきます。

2. このポートレットがポートのほかのコンポーネントに影響しているかどうか確認するには、[グラフを生成] を選択してグラフィカルビューを生成します。

スペシャリストは、このポートレットにより、5つのほかのページ、1つのブック、および1つのデスクトップのパフォーマンスが低下していることに気がつきます。それらはすべて個別では目立ちません。

3. この問題に関係するポータル開発チームに、関連するページとポートレットの情報を添えてこの問題をエスカレートします。

ポータル開発者: 詳細な診断用のメトリックを使用して問題を解決

ポータル開発者は、問題レポートを受け取ると、以下の作業を行います。

- ポータル開発者は、**Introscope Investigator** を使用して、ダッシュボード、パフォーマンスが低いコンポーネントのテーブルビューおよびグラフィカルビューから、問題を引き起こしているポートレットのメトリックの詳細を調べます。

Investigator を使用したアプリケーションの問題の診断の詳細については、「**CA APM Workstation ユーザガイド**」を参照してください。

ポータル開発者は **Introscope** のメトリックに組み合わされているポータルコードを熟知しているため、根本原因であるポートレット内の該当メソッドを正確に指摘することができます。そして、コードを修正して、その問題を解決できます。

このようにして、チームは **Investigator** の **CA APM for Oracle WebLogic Portal** ダッシュボード、パフォーマンスが低いコンポーネントのテーブルビューとグラフィカルビュー、およびメトリックを使用して、問題の検出、切り分け、診断、および解決を行います。

付録 A: メトリック

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[メトリック パス \(P. 47\)](#)

[メトリック カテゴリ \(P. 47\)](#)

メトリック パス

Introscope Investigator で WebLogic Portal ノードの下に表示されるすべてのメトリックは、以下の形式で示されます。

WebLogic Portal|<modulename>|<metricname>

メトリック カテゴリ

CA APM for Oracle WebLogic Portal を使用してポータル サーバを監視する場合、以下のメトリック カテゴリを利用できます。

注: Introscope Workstation に表示されるメトリックは、環境によって異なります。

Authentication

- *WebLogic Portal|Authentication|Access Checks*
- *WebLogic Portal|Authentication|Adjudicate Results*
- *WebLogic Portal|Authentication|Authenticate users*
- *WebLogic Portal|Authentication|Basic User Form Authentication*
- *WebLogic Portal|Authentication|Get Roles*
- *WebLogic Portal|Authentication|Run as Users*
- *WebLogic Portal|Authentication|Validate Principal*

Content Management

- *WebLogic Portal|Content Management|Node|Get Name*
- *WebLogic Portal|Content Management|Node|Get Path*
- *WebLogic Portal|Content Management|Node|Get Created By*
- *WebLogic Portal|Content Management|Node|Get Modified By*
- *WebLogic Portal|Content Management|Node|Get Created Date*
- *WebLogic Portal|Content Management|Node|Get Modified Date*
- *WebLogic Portal|Content Management|Node Ops|Get Node*
- *WebLogic Portal|Content Management|Search|Expression Helper|Normalize*
- *WebLogic Portal|Content Management|Search|Expression Helper|Parse*
- *WebLogic Portal|Content Management|Search|Search Ops|Get Node*
- *WebLogic Portal|Content Management|Search|Repository Manager|Search Repository*
- *WebLogic Portal|Content Management|Search|Node Ops|Get Nodes*

Desktops

- *WebLogic Portal|Desktops|JavaPortlet|{definition_label}*
- *WebLogic Portal|Desktops|JavaPortlet|{definition_label}|{method}*
- *WebLogic Portal|Desktops|Portlet|{definition_label}*
- *WebLogic Portal|Desktops|Portlet|{definition_label}|{method}*
- *WebLogic Portal|Desktops|ProxyPortlet|{definition_label}*
- *WebLogic Portal|Desktops|ProxyPortlet|{definition_label}|{method}*
- *WebLogic Portal|Desktops|{request_url}|Book|{book_definition_label}*
- *WebLogic Portal|Desktops|{request_url}|Book|{book_definition_label}|{method}*
- *WebLogic Portal|Desktops|{request_url}|Book|{book_definition_label}|Page|{page_definition_label}*

- *WebLogic Portal|Desktops|{request_url}|Book|{book_definition_label}|Page|{page_definition_label}|{method}*
- *WebLogic Portal|Desktops|{request_url}|Page|{page_definition_label}*
- *WebLogic Portal|Desktops|{request_url}|Page|{page_definition_label}|{method}*
- *WebLogic Portal|Desktops|{request_url}|Page|{page_definition_label}|Portlet|{portlet_definition_label}*
- *WebLogic Portal|Desktops|{request_url}|Page|{page_definition_label}|Portlet|{portlet_definition_label}|{method}*
- *WebLogic Portal|Desktops|{request_url}|Control Tree Walker|Walk*
- *WebLogic Portal|Desktops|{request_url}|Control Tree Walker|Walk|Lifecycle Phases|{lifecycle phase}*
- *WebLogic Portal|Desktops|{request_url}|JSP Backing Files|{classname}|{method}*
- *WebLogic Portal|Desktops|{request_url}|Page Flow Content|{content_url}|{method}*
- *WebLogic Portal|Desktops|{request url}|Portlet Servlet*

Entitlements

- *WebLogic Portal|Entitlements|Get Roles*
- *WebLogic Portal|Entitlements|Is User in Role*
- *WebLogic Portal|Entitlements|Is Access Allowed*

Java Page Flows

- *WebLogic Portal|Java Page Flows|{packagename}|{classname}|*
- *WebLogic Portal|Java Page Flows|{packagename}|{classname}|{method}*
- *WebLogic Portal|Java Page Flows|{packagename}|{controller_name}*
- *WebLogic Portal|Java Page Flows|{packagename}|{controller_name}|{method}*

J2EE Portlet API

WebLogic Portal|J2EE Portlet API|Render

NetUix Controls

WebLogic Portal|NetUix Control|{classname}|{method}

Personalization

- *WebLogic Portal|Personalization|Advisor|Get Advice*
- *WebLogic Portal|Personalization|Advislet|Get Advice*
- *WebLogic Portal|Personalization|Advislet|Get Required Attributes*
- *WebLogic Portal|Personalization|Advislet|Validate Advice Request*

Presentation Contexts

WebLogic Portal|Presentation Contexts|{classname}|Render

Profile Factory

- *WebLogic Portal|Profile Factory|Get Profile*
- *WebLogic Portal|Profile Factory|Create Profile Identity*

Profile Manager

- *WebLogic Portal|Profile Manager|Get Properties*
- *WebLogic Portal|Profile Manager|Get Property as String*
- *WebLogic Portal|Profile Manager|Set Property*

Workshop Controls

- *WebLogic Portal|Workshop Controls|Create User Control|Create User*
- *WebLogic Portal|Workshop Controls|User Login Control|Login*
- *WebLogic Portal|Workshop Controls|User Login Control|Logout*
- *WebLogic Portal|Workshop Controls|User Profile Control|Get Profile*
- *WebLogic Portal|Workshop Controls|User Profile Control|Get Properties*

- *WebLogic Portal|Workshop Controls|User Profile Control|Get Property*
- *WebLogic Portal|Workshop Controls|User Profile Control|Get Profile For User*
- *WebLogic Portal|Workshop Controls|User Info Control|Get Authenticated User Id*
- *WebLogic Portal|Workshop Controls|User Info Control|Get Available User Roles*
- *WebLogic Portal|Workshop Controls|User Info Control|Get Group Names for User*
- *WebLogic Portal|Workshop Controls|User Info Control|Get User Group Names*
- *WebLogic Portal|Workshop Controls|User Info Control|Is Current User in Role*

WSRP

- *WebLogic Portal|WSRP|Consumer|{ProxyClass}|{producer_name}-{producer_Handle}|{portlet_name}*
- *WebLogic Portal|WSRP|Producer|{consumer_host}-{producer_url}|{portlet_name}*
- *WebLogic Portal|WSRP|Debug|{classname}|{method}*

第 4 章: IPv6 アドレスの有効化

WebLogic Portal Server v9.2、v10.0、v10.2 および v10.3 は、デュアル スタックでの動作が保証されています。WebLogic Portal Server にインストールされる CA APM for Oracle WebLogic Portal コンポーネントは、IPv6 に準拠しています。

CA APM for Oracle WebLogic Portal でサポートされる IPv6 は、CA APM for Oracle WebLogic Portal が稼働している環境 (JVM、WebLogic Portal、オペレーティング システム、ハードウェア スタック) によって異なります。

次の手順に従ってください:

Windows の場合 :

1. Portal Server の起動スクリプトを開きます。
2. スクリプト内の `JavaOptions` セクションに以下のプロパティを追加します。
`-Djava.net.preferIPv6Addresses=true`

UNIX の場合 :

1. Portal Server の起動スクリプトを開きます。
2. スクリプト内の `JavaOptions` セクションに以下のプロパティを追加します。
`-Djava.net.preferIPv6Addresses=true`

注: `-Djava.net.preferIPv6Addresses=true` を設定する場合、Investigator は `*SuperDomain* | <agentname> | <hostname> | Host : IP Address` の下に完全な IPv6 アドレスを表示します。エージェントが実行されているシステムの `hosts` ファイルに IPv6 アドレスが記載されていない場合、Investigator は `0:0:0:0:0:0:1` を表示します。

付録 B: FAQ

この付録では、CA APM for Oracle WebLogic Portal に関するよくある質問について説明します。

製品で作成されるメトリックをどのようにカスタマイズできますか？

この製品では、事前に設定された 2 つの PBD ファイル、*powerpackforweblogicportal_typical.pbd* と *powerpackforweblogicportal_full.pbd* を利用可能です。それらのいずれか 1 つを使用できます。その他のモジュールを有効にする場合は、*powerpackforweblogicportal_typical.pbd* 内の対応する行のコメント化を解除します。*powerpackforweblogicportal_typical.pbd* では、デフォルトで有効になっているトレーサフラグのコメント化を解除しないでください。ほかのメトリックの作成に影響を与えます。

製品のメソッドレベルメトリックが表示されないのはなぜですか？

メソッドレベルメトリックは、*powerpackforweblogicportal_full.pbd* では利用できますが、*powerpackforweblogicportal_typical.pbd* では利用できません。*powerpackforweblogicportal_full.pbd* を使用すると、多数のメトリックが作成され、より多くのパフォーマンスオーバーヘッドが生じます。問題切り分けに必要な場合以外は、メソッドレベルメトリックを使用しないでください。

Enterprise Manager のログに「An Agent is illegally reporting data against the calculator metric」というエラーメッセージが表示されるのはなぜですか? Investigator ツリーにも NULL ノードが表示されるのはなぜですか?

Enterprise Manager のログに「An Agent is illegally reporting data against the calculator metric」というエラーメッセージが表示されるのはなぜですか? Investigator ツリーにも NULL ノードが表示されるのはなぜですか?

powerpackforweblogicportal_typical.pbd で以下のトレーサを有効にすると、このエラーが発生します。

TurnOn: ControlsWithTitles

同様に、*powerpackforweblogicportal_full.pbd* で以下のトレーサを有効にすると、このエラーが発生します。

TurnOn: OverallPortletComponentTracing

このエラーおよび Investigator ツリー内の NULL ノードを回避するには、*powerpackforweblogicportal_typical.pbd* 内の *TurnOn: ControlsWithTitles* トレーサ、

および *powerpackforweblogicportal_full.pbd* 内の *TurnOn:*

OverallPortletComponentTracing トレーサを有効にしないでください。

ブック、ページ、およびデスクトップ間で不正な関係が表示されるのはなぜですか。

この問題は、*ControlTreeWalkerTracing* が *pbd* でコメント化されていることが原因です。*ControlTreeWalkerTracing* のコメント化が解除されているかどうかを確認します。

ページの平均応答時間が、ページ内の最も非効率的なポートレットの平均応答時間未満で表示されるのはなぜですか。

この製品は、コントロール ツリー マップのトラバースル中にこれらのコントロールで起動されるイベント (Init、Handle Post Back、Pre Render、Raise Change Event、および Save State) の数をキャプチャします。

ページの平均応答時間は、そのライフ サイクル メソッドからの平均値です。この時間は、そのページ内の最も非効率的なポートレットの平均応答時間よりも短くなります。

1つのページ/ポートレットをクリックすると、Investigator に多くのブック/ページ/ポートレットの値が表示されるのはなぜですか。多くのコンポーネントで平均応答時間が0になるのはなぜですか。

1つのページ/ポートレットをクリックすると、Investigator に多くのブック/ページ/ポートレットの値が表示されるのはなぜですか。多くのコンポーネントで平均応答時間が0になるのはなぜですか。

間隔ごとの応答数は、正確な数ではありません。この数は、最後の Introscope 間隔（15 秒）中にページ/ブック/ポートレットがアクセスされた実際の回数を反映していません。このメトリックは、コントロールツリーマップのトラバーサル中にこれらのコントロールで検査されるイベント（Init、Handle Post Back、Pre Render、Raise Change Event、および Save State）の数にすぎません。そのため、平均応答時間は、要求されたコントロールの一部ではないほとんどのコントロールに対して0になります。

ページ/ブックに一度アクセスした場合でも、1より大きい間隔ごとの応答数の値が表示されるのはなぜですか。

1 ページだけにアクセスした場合は、内部レンダリング中にメソッドがほかのコンポーネント（ブック/ページ/ポートレット）に対して呼び出される場合があります。呼び出されるメソッドは、Init、Handle Post Back、Pre Render、Raise Change Event、および Save State などです。これにより、間隔ごとの応答数の値が1を超えることとなります。

1つのポートレットが多数のページに含まれている（同様に、1つのページが多数のブックに含まれている）場合に、その一部がグラフに表示されないのはなぜですか？

グラフ内の各レベルのコンポーネント数は20に制限されています。グラフには、ポートレットのパフォーマンスが低いページが表示されます。

グラフに親と子の両方のコンポーネントがある場合でも、親から子(ブック - ページ、ページ - ポートレット)へのエッジが表示されないのはなぜですか。

グラフに親と子の両方のコンポーネントがある場合でも、親から子(ブック - ページ、ページ - ポートレット)へのエッジが表示されないのはなぜですか。

グラフは、パフォーマンスが最も非効率的なコンポーネントの影響を識別するために使用されます。 ページおよびページのポートレット部分がグラフ内にあっても、ポートレットはページに対して適切に動作します。たとえば、ポートレットの平均応答時間が **page 1** と **page 2** に対して、それぞれ 15 と 20 であるとします。パフォーマンスが最も非効率的であるとして **page 1** がすでに表示されている場合でも、グラフにはポートレットから **page 2** への関係が表示されます。このポートレットは、**page 2** に対してパフォーマンスが最も非効率的です。 **page 1** は、ほかのポートレットのためにパフォーマンスが最も非効率的になっています。

グラフにテーブルのすべてのコンポーネントが表示されないのはなぜですか。

グラフは、サーバ内のパフォーマンスが最も非効率的なコンポーネントの影響を示します。これらのコンポーネントに対する関係が存在しない場合は、グラフに表示できません。

複数のポータルタイプビューが表示されるのはなぜですか。その中で、想定したとおりに実行されているのは1つだけです。

複数のポータルタブが表示されるのは、ユーザが Workstation からログアウトし、終了せずに再度ログインした場合です。これを解決するには、Workstation を終了し、`<Introscope_WS_Home>/config/internal/console` 下に存在するフォルダ `ws-plugins` を削除して、Workstation を起動します。ログアウトするときには、Workstation を終了してください。

ダッシュボードに一部のコンポーネントのデータが表示されないのはなぜですか。

CA APM for Oracle WebLogic Portal には、以下の 2 つの管理モジュール .jar ファイルが含まれています。

- *PowerpackForWeblogicPortal_ManagementModule_typical.jar*
- *PowerpackForWeblogicPortal_ManagementModule_full.jar*

<Agent_Home> で使用する .pbd に対応する管理モジュールを使用します。もう一方の管理モジュール .jar は、今後使用するために portal ディレクトリに移動できます。